

有馬龍子記念京都バレエ団

「京の四季」「屏風」

新年8日の京都バレエ団公演は和の香り漂う2作品。有馬えり子振付「京の四季」は大谷祥子の箏や小鼓に乗せ、生花ともコラボレーションするもの。「4年前に上演後、もっと創り込みたい思い

が。前は和の楽器ばかりだったのですが、今回はより「La Fusion」——日本文化と西洋文化の融合を意識し、ヴァイオリンも」と有馬。

そして、1974年の初演以来、海外公演を含めて上演を重ねる有馬龍子振付「屏風」。金剛永謹の謡など和の音とエリック・サティのピアノ曲が不思議なほどに作品の中



左から、太一役の鷺尾佳凜、振付の有馬えり子、京子役の藤川雅子、びょうぶ売りの北野優香

の伝田陽美とは気心も知れ、一緒に良い舞台を創れそうな安心感があります。東京バレエ団の伝田は系列の京都バレエ専門課程の卒業生で藤川との舞台も多い。また、びょうぶ売りを佐々木嶺と

「彼女が美しいですし、太一がふと惹かれるような存在として描きたい」。「ここで育った人たちが主要な役柄を担うので良くするための意見を遠慮なく言ってくれて頼もしい」と有馬。作品を大切にする気持ちがかもる舞台になりそうだ。

冬、ダンス企画

ダンス企画が目白押し。公演、生け花とバレエの組み合わせ。ホットな情報をお届けします。

La Fusion ——日本文化と西洋バレエの融合——

で融合する名作だ。京子役の藤川雅子は「先輩方の素晴らしい踊りを見て来ているので身が引き締まる思いです。びょうぶの女」役

ようぶ売りを佐々木嶺と共に踊るのは北野優香。有馬は「彼女は美しいですし、太一がふと惹かれるような存在として描きたい」。「ここで育った人たちが主要



「びょうぶ」◎瀬戸秀美

2023年1月8日

(日)15時半、ロームシアター京都メインホール。

10000〜4000円

(当日500円増)。問合

せは同団075・70

1・6026(松あつこ)